



# 京大広報

号外

2002.4



平成14年度入学式

## 目次

### 入学式

学部入学式における総長のことば.....1250

大学院入学式における総長のことば.....1254

### 大学の動き

平成14年度学部入学式.....1256

平成14年度大学院入学式.....1257

名誉教授称号授与式.....1258

平成14年度入学者選抜学力試験の結果.....1259

### 医療技術短期大学の動き

平成14年度医療技術短期大学部入学式.....1260

平成14年度医療技術短期大学部入学者  
選抜学力試験の結果.....1260

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

## 入学式

### 学部入学式における総長のことば

平成14年4月8日

総長 長尾 真

本日京都大学に入学された2,895名の皆さん、まことにおめでとうございます。ご列席の元総長岡本先生、沢田先生、西島先生、井村先生、名誉教授の方々、各学部長とともに皆さんの京都大学入学を心からお喜びいたします。

#### 1. 学問をすること

皆さん既にご存知の通り、京都大学は日本における最高の学問研究の場であり、数多くの世界的な学者・研究者を擁しております。このような先生方の指導の下に皆さんはこれからの4年間勉強することになるのです。これまで皆さんは、いわば標準的メニューで、栄養たっぷりでほとんど噛まなくても消化する食事といった形の教育を受けて来ました。しかしこれからはそうではありません。皆に一樣に与えられる標準的なメニューというものはなく、それぞれが自分で自分のメニューを作り、自分で料理をしたり、噛めないほど固い物を何度も噛んで食べるといったことをしなければなりません。

「学問に王道なし」であります。人類の英知の結晶である学問が、ぼんやりと聞いていて理解できるものでは到底ありません。京都大学の学問研究は求める者にはあまねく開かれています。学問をしようとする者に対しては先生方は真剣に対応し、そこに先生の全人格が投入されるのであります。「求めよ。さらば開かれん」であります。

したがって、皆さんは就職するために通過する単

なる1つのステップとして京都大学に入学したとするならば、その考え方は今ここで捨てていただかねばなりません。皆さんは知にあこがれ、学問をしようと決心して京都大学に入学して来たのであり、自らすすんで学問を求めてゆかねばなりません。その覚悟をこの入学式においてははっきりと持ち、これを4年間持続していただきたいのであります。

それでは学問とはいったい何なのでしょう。これまで皆さんが学んで来た事とどう違うのでしょうか。その根本的な違いを皆さんは知らねばなりません。これまでは皆さんは標準的な教科書によって知識を学んで来ました。それらは全て正しい事であり、無批判的に安心して学習して来たわけであり、これに対して、大学で学ぶ学問は、知識がどのような体系をなしているかを学ぶとともに、何が正しいことであるか、こういった事が起るのはなぜなのか、といった疑問を発することによって、物事の根本にある事柄を明らかにし、複雑な事象をこのようなより基本的な事柄の相互関係によって説明します。学問は知識を体系化し物事を論理的に推論する方法を教えてくれるのであり、未知の事柄に対しても学問的知識と推論の力で深く考えることによって、その事柄の成り立ち、原因などを明らかにすることが出来るのであります。

皆さんは、大学を出て社会に入っていけば、種々の難しい解決困難な問題に遭遇しますが、そういった問題に解決を与えてくれるのは皆さんが大学生の



間に学んだ学問であり、そこで鍛えた思考力であり、またそこで形成した皆さんの教養と人柄であります。皆さんの長い人生の基礎は、この学生時代に築かれるということをよく自覚していただきたいのであります。

## 2. 迷いを克服すること

皆さんの中には、将来何をしたいとか何になりたいといった明確な目標を持って入学した人達がいるでしょう。そういう人たちが多くいる事を望みますが、皆さんの中には、ある学部へ入ったけれども、将来こういう仕事をしたい、こういう人になりたいといったことを明確に意識していない人も多いのではないかと思います。大学を卒業したらどのような職業につくのか、あるいは大学院へ進学してさらに勉強しようとするのかといったことは、これから3年先には決めなければなりません。しかしそれは簡単ではありません。自分が何に適しているか、将来何をするのがよいかを自分自身で判断するのは非常に難しいことでもあります。しかし結局は自分が決めねばならないわけであり、自分の人生は自分しか責任を取れないのであります。

皆さんはこういった状況の中で大いに迷うでしょう。将来何になるか分らねば何を勉強したらよいか分からないということにもなりかねません。しかし、迷うのは自分だけではありません。ほとんどの人が迷うのですし、迷わない方がおかしいと言ってよいかもしれません。大いに迷えばよいのです。ただ、迷って何もしないというのがいけないのです。自分の迷いを解決するためになすべきことがあるはずで、自分の置かれている状況をよく考え、いろんな可能性を検討することが必要です。そうすれば自然に自分のとるべき方向が見えてくるでしょう。その検討のためにも社会を知り、自分を知ることが必要で、そのためには勉強をしなければなりません。

皆さんの前途にはあまりにも多くの可能性が開かれていますから、自分の将来にとって何が良いか、それを判断するための材料とその<sup>よりどころ</sup>拠をどこに求めるかといったことについて迷うのです。自分は絶対にこれだという確信に到る人は稀であり、そういう人は幸運であります。世の中が自分の予想通り、また思い通りにならないのは当然であり、多くの人は

偶然や運に左右されながら人生を過してゆくのです。しかし一方では、憧れや理想を持ち、努力をしつつけば、長い人生の間にはその目標を達成できるということも多くの場合事実なのであります。その時々には運命に左右されるように見えても、自分の目的や憧れを放棄せず、常に努力をすることによって、それを実現したという人達は沢山おられます。“Boys be ambitious”であります。憧れを抱くだけではなく、それを実現するにはどうすればよいかを考え、常に着実に努力することが必要であります。

## 3. 人間として守るべきこと

人生には迷うことが多いと言いましたが、誰もが迷わずに実践すべきことがあります。それは人間として間違いのない生き方をするということであり、人としての道徳を守り、正しい生き方をする不断の努力が全ての人に求められているのであります。

民主主義は、今日これ以上に危険性の少ない制度がないという意味で、世界における普遍的な原理と考えられるようになって来ておりますが、これを自由主義、特に何の制約もない単純な無限の自由という権利を持つこととしばしば誤解されます。今日の社会では権利の主張があまりにも多すぎるくらいがあります。権利には常にそれに伴うものとして義務があります。自分の権利を主張するということは、自分だけでなく全ての他人も主張することですから、自分の権利を守るということは他人の権利をも守るということであることは当然であり、そこに他人に対する義務という考え方が生じるのであります。これは民主主義の一つの大切な概念であります。

京都大学の我々の先輩であり元日本弁護士連合会会長の中坊公平氏は、権利という語は英語の right の訳語であり、right には本来的に正義という意味があるのであるから、権利の利は利益の利という文字でなく、道理の理という文字を用いるべきであると言っておられます。つまり権利は道理や正義につながってゆくというわけであります。

ここで、皆さんに特に認識していただきたいことがあります。それは権利の中でも特に大切な人権ということであり、自分の権利を守ることは他人

の権利をも守ることであると言いましたが、これが人権の根本的な考え方であります。これは人間である以上だれもが守らねばならないことですが、とりわけ学問をする大学においてはこの人権を尊重し、よく守るべきことは当然であります。ところが京都大学において時々差別落書きなどの問題が起きているという事実があるのであります。これは許すことのできない事であり、新入生の皆さんにも十分な認識を持っていただく必要があり、人権と差別問題について少しお話をいたします。

#### 4. 人権（差別）問題の認識と解決に向けて

今日、民主主義が定着したと考えられている日本においても、人権問題がいろいろ残っています。児童問題、高齢者問題、同和問題、障害者問題、女性問題、人種・民族問題、環境問題などです。このような人権問題の中でも、部落差別、障害者差別、女性差別、人種・民族差別など、いわゆる差別問題と呼ばれている問題の解決には、人間一人ひとりの尊厳と固有の価値をお互いに認め合うことが必要であります。「人は皆同じだから平等」というのではなく、「人は皆違うからこそ平等でなければならない」という根本認識を持たねば、こういった問題はなかなか解決しません。

京都大学は、昨年12月、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、今日の多角的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献するため、「自由と調和」を基礎とする八つの基本理念を制定しました。そしてその中の一つとして「環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える」ことをうたっています。

京都大学は、このような理念に基づき、以前からも真剣に取り組んで来た人権問題に、より積極的に取り組んで行こうと思っています。大学全体として人権尊重の視点に立った施策を策定・推進するために、同和・人権問題委員会と人権問題対策委員会を設けております。同和・人権問題委員会は同和・人権問題についての理解と認識を深めるため、教職員と学生を対象に研修会を開催したり、啓発冊子を作成・配布したりしていますし、人権問題対策委員会は学内における具体的な人権問題、セクシャルハラ

メント等に対処するため、行動計画を立てるとともに、相談活動を行っています。また各学部等においても、人権に関する相談窓口を設け、誰でも問題があれば訴え、相談することが出来るようにしております。さらに、将来、社会の第一線で活躍することになるであろう学生諸君に人権尊重の精神を涵養するため、人権に関する講義を全学共通科目や教職科目、専門科目で開講しています。

政府においても、これまで人権問題について幾つもの法律を作るとともに、国際連合の人権関係条約の締結を行い、この問題の解決に努力してきました。今国会においては、人権救済機関の創設を柱とした「人権擁護法」を成立させ、不当な差別などについては法的措置を取ることが出来るようにしようとしています。

新入生の皆さんには入学に際して幾つかの学習の手引きの他に、人権問題に関するパンフレット「自由で平等な社会をつくるために」を渡していますから、これをよく読み、人権についての認識を深め、人権意識の向上に努めていただくとともに、差別的言動や落書きなど、許しがたい人権侵害行為に対しては黙認せず、毅然とした態度で立ち向かっていただきたいと思います。

#### 5. 自分の足元を見ること

学問は抽象的な世界であるとともに、それは現実世界に足をおろしたものでなければなりません。我々は学問の高みを見上げながら努力するとともに、そこに登ってゆくために一步一步踏みしめる足元をよく眺めなければなりません。京都大学に入学した皆さんは将来の日本を支えてゆく、いわばエリートのお卵であり、上へ上へと登ってゆく意識を持っているでしょう。それは大変よいことではありますが、上昇志向で目線を上に向ければ向けるほど、同時にまた目線を下に向け自分の足元を見なければなりません。学問をする人間は人権問題など社会の基底に沈澱し堆積している多くの人間的・社会的問題に対して、理性による理解はもちろんのこと、それを越えて心の底から理解をするということが大切なのであります。我々が生まれ育って来た社会的な土壌をよく理解するというのがなければ、栄養を汲み上げて高く成長することが出来ないのであります。

現代の我々はあまりにも西欧化された文明世界に住んでいるためか、我々の祖先がどのような精神的伝統をもっていたかとか、もっと目線を下げて昔の人達はどのような生活をしていたのか、といったことをほとんど全くといってよいほど知りません。日本の日常社会、庶民の生活に目線を向け、日本の民俗学を確立したのは柳田国男でありました。しかし日本全国を隈なく旅し、庶民とともに生き、庶民の最も底辺の生活に目線を向けたのは宮本常一でありました。宮本常一の書いたものからは、庶民一人ひとりを大切に、それらの人達を愛し、友とする気持がよく伝わって来ます。宮本は、たった50年100年前の日本の田舎において、日本人はいかにおらかな気持を持ち、相互扶助の社会を形成していたかをよく画いておりますし、また一方ではそのような社会に根強く残っている差別問題についても目をそらさない人でありました。

#### 6. これからの時代を生きてゆくために

皆さんもご存知の通り、今日の日本は経済の不況の真ただ中にあり、これからの日本経済を強くしてゆくための、いわゆる構造改革といったメスが鋭く入れられている結果、多くの企業の倒産と大量の失業が生じるなど、日本社会は戦後50年を経て大きな混乱の中にあり、歴史的転換点にあります。

戦後、日本の産業は急速に発展し、社会は豊かになり、いくつかの企業は世界的な規模のものとなりました。しかし、日本人一人ひとりを見るとけっして国際的に通用する人間とはなっておりません。すなわち、一人ひとりの人がいまだに自立した個人となっていない、色濃い集団主義の中に安住しています。日本人は自分の属す集団の一員としてしか行動しないし、また他人を個人として見るのではなくその背後にある集団の中の人として見る傾向がなくなっておりません。個人が確立していないわけであります。人間は本質的に社会的なものであり、集団に属し、集団の目的に向かって努力することは当然ではありますが、それは常に個人としての判断の下にそうすべきであって、集団としての考え方、集団としての行動に単純に追従するというものであってはならないでしょう。

この日本人の個人の持つ性格とほとんど全く同じ

ことが日本の企業の行動についても言えるのであります。企業の責任者がそれぞれ企業倫理を守り、それぞれが企業責任を自覚してまじめに努力することをせず、あまい判断で護送船団方式の中に安住し、国にもたれかかって来た結果が今日の日本経済の混迷を招き、不況からなかなか脱出できないでいる根本的理由ではないでしょうか。これからの厳しい国際競争の世界の中で、日本が、また日本の企業がしっかりと生き活躍してゆけるようにする原動力は、その構成員である個人の人格と識見にあるのであります。したがって大学の役割は、そういった使命感をはっきりと持ち、その活動の中心となり、またこれを先導してゆくことのできる人達を育成するところにあるのであります。

#### 7. 京都大学で学ぶこと

京都大学はそういった将来の日本を支える人材を育成しようとしているのであります。京都大学は学問の自由を標榜し、個人を最大限尊重する学風をもった大学であります。皆さんは京都大学において自由に勉強することができます。学生一人ひとりの人格・人権を尊重しております。しかしそれはとりもなおさず、自分の責任は自分がとるという責任感をもった個人を作ることを意味するのであります。皆さんは京都大学における学問の自由を、何でも無制限に許されていることと考えてはなりません。先ほどから言っていますように、人間や社会を抜きにした学問はありえず、人間として守るべき基本的なこと、即ち他人の人権を尊重するということを抜きにした学問ということはありません。

これからの難しい国際社会の中で、日本という国家、あるいは皆さんが将来入る企業、また皆さん個人がしっかりとした地位を占めながら、世界の平和的共存に貢献してゆくためには、それぞれが世界的な視野を持ち、世界の誰とでも対等に意見をたたかわせることができるだけの識見とコミュニケーション能力を持つことが必要であります。そのためには十分な教養を積み、外国語能力を高め、さらに皆さんの専門分野の知識を十分に習得し、自分の物の考え方を確立することが必要であります。

京都は1200年の古都であり、日本の伝統・精神文化の中心であります。皆さんは世界に普遍的な学問

を学ぶとともに、日本人としてのアイデンティティを身につけ、これからの多様化し多元的価値の共存する世界において、日本人としての良さを発揮していただくことが大切なことでもあります。京都大学の卒業生から5人のノーベル賞学者や、借り物でない自分の学問を打ち立てた多くの学者が出たというのも、京都という精神的・文化的土壌からの栄養の汲み

上げがあったからに違いありません。京都大学に学ぶということは、そういった点からも皆さんにとって最良の場であり、人生における最も大切な時であるわけでもあります。皆さんの京都大学での勉強、生活が実り豊かなものであることを期待して、お祝いの言葉といたします。

## 大学院入学式における総長のことば

平成14年4月8日

総長 長尾 真

本日、京都大学大学院に入学された2,445名の皆さん、おめでとうございます。ご列席の各研究科長とともに皆さんの入学を心からお喜びいたします。これから皆さんは修士課程2年間、あるいは博士課程5年間を京都大学で過ごすこととなりますが、それが充実したものとなるよう期待しております。

京都大学には約3,000人の教官がいて、それぞれの分野で世界的なレベルでの研究をしています。京都大学はそういった意味で研究中心の大学、大学院重点化大学であります。大学院でも教室での講義はいろいろとあり、学問の最先端を教えますが、さらに大切なのはセミナーや実験室において教官とともに研究をし、議論を深める事であり、これによって学問における最も大切なことを学びます。それは、どういったことに対して疑問を持ち問題設定をするか、どういった観点からそれを分析し解決にもってゆくか、といった学問の仕方であります。

そこでは皆さんも教官と対等の立場に立って物事を考え、アイデアを戦わせることが必要であります。教官あるいは先輩に対する礼儀を守るという事は当然ですが、それと自分の意見を述べ、相手に理解してもらうことは全く別のことであります。一般的にいて京都大学の学生はおとなしく、遠慮がちで、自分の意見を明確に表現するという点においては、東京や大阪の学生に比べてかなりの差があります。自分の考えている事をいかにうまく表現し、相手に理解してもらうかということは、皆さんのこれからの人生において非常に大切なことでもあります。



皆さんが京都大学大学院に入学したということは、他から与えられた研究テーマを義務的にするのではなく、自分が興味をもち解明したいという研究課題を持っているはずであります。その課題はどういった内容のものであり、その課題の解決がどのような学問的寄与をする可能性があるか、それをどのように解決しようと考えているかといったことを、他の人達に分かりやすく説明することが出来ねばなりません。物事を分かりやすく説明するためには、それをいろんな角度からながめて、なすべきこと、取るべき方法などを考え、自分としてその課題に取り組む確信を得ることが前提となります。そのためには出来るだけ多くの人に説明し、理解してもらい、また批判してもらうことによって、自分の考え方が客観的に耐えうるものであること、そして自分の課題の解決が他の人達の研究に対しても貢献するものとなることを確信できるのであります。

いずれにしても、大学院に入れば自分の専門分野の学問の最先端がどこまで行っていて、どのような

ことが研究の課題となっているかを国内だけでなく世界のレベルで知らねばなりません。特に世界の最先端の研究グループがどこにあって、どのような考え方で研究を推進しているかを知ることが必要で、そのためにはそのグループのところに出かけて行って、その中心人物に会って議論することが必要です。そうすればその人の人柄、物の考え方が分り、研究をどのような方向に展開してゆこうとしているかが分り、自分の考え方がどのように違っていて独創的であるかといったことも分ってくるのであります。したがって皆さんはあらゆる機会をとらえて外部、特に外国に出かけて行って研究者に会い、相手を理解すると共に、自分の研究を知らせ、また議論をする必要があります。

新しい文明は異なった文明間の衝突によって作られて来ていることは歴史を見れば明らかであります。同様なことは創造についても言えるでしょう。異なった考え方のぶつかり合い、異なった学問分野の考え方や手法の導入、異なった学問分野の統合などによって革新的な考え方が生まれ、新しい学問分野が展開されてゆきます。人類学、言語学、心理学などの統合的立場からのC・レヴィ・ストロースの構造主義は有名ですが、近代経済学は高度な数学的手法の導入によって発展して来ていますし、最近では地球温暖化現象と国際経済の関係や、生命科学と情報科学との結合による生命情報学という分野が発展しつつあるなど、枚挙にいとまがありません。

実務に近い分野ではそういったことがもっと激しく生じております。今日、情報・ソフトウェア技術や生命原理などが分からずに特許紛争や医療関係の訴訟は扱えないようになって来ております。したがってこれからの裁判官、弁護士などは自然科学や医学、その他多くの学問が分からねば仕事ができないようになるでしょう。

こういったことから分かるように、これからの学問研究をしてゆこうとする皆さん、あるいはまた高度専門職業人として社会に出て活躍しようとしている皆さんは、自分の狭い専門分野にとじこもってはいはだめなのであり、広く関連分野の勉強をしながら、自分の専門分野に新しい角度から鋭いメスを入れるということが出来ねばならないのであります。そしてグローバル化された世界に出て行って自

分の研究成果を説明し、相手に対してチャレンジすることが大切であります。いわゆる他流試合をする勇気を持つことであります。

新しい知識を作り出してゆくには、広くいろんな知識を動員して種々の組み合わせを考え、推論をすることが必要になるのですが、現在分かっている知識から演繹的に推論できる範囲の新しい知識はいわば常識的な進歩の部類に入るものであり、それを越える全く新しい物事、ブレークスルーをもたらす真の創造的なアイデア・研究は偶然生み出されることが多いのであります。学問芸術の女神ミューズの微笑みが必要というわけであります。

しかし、それは全くの偶然、何もなしの偶然ではありません。あらゆる知識を動員し、推論しつくした先で、なおかつ現実や実験結果との差異を直視し、深く考えるという行為がまず必要であるわけであり、ほとんどの人はそのあたりであきらめてしまうのですが、そうでなく壁にぶつかっても考え続けていると、ある時偶然にミューズが微笑んでくれ、大発見や予見されなかった新しいものの創造につながるということがあるのであります。ノーベル賞をはじめ偉大な賞をもらった多くの人は何年、何十年にわたるねばり強い努力によってミューズの微笑みを呼び込んだのであります。そういう人の場合は、研究を義務としてやるとか、自分の生計をたてる手段としてやっているといったことでなく、自分の人生をかけているのであります。皆さんも大学院でそういった自分の人生をかけられる研究テーマを発見していただきたく思います。

もう一つは、皆が常識だと思っていること、分かっていることから演繹される当然の結論といったことにも疑いを抱くということです。そこから全く新しい世界が開けてくる場合もあるからであります。ある結論も少し違った条件や環境におけば反対の結論になることがあるからであります。特に人文社会系の多くの問題はそういった性質をもっている可能性があるのであります。

さらに、ある目的に向って研究を進めている中で、脇道に面白い副次的な課題が見つかって、そちらにのめり込んで行って大きな成果をあげたりすることがあります。serendipityと呼ばれていることで、そのような副次的課題にのめり込んで行く人はよいの

ですが、自分の最終目的とは違っているのしばしば見過ごしてしまいがちです。しかし、実は最終目的はいつまでも到達できずに、serendipityによる幾つもの成果が社会で高く評価されるということもあるのです。これもミューズの微笑みの一種でしょう。そこが研究の面白いところでもあります。

いずれにしても、学問研究は客観的で多くの人が

理解できる普遍性を持つことが必要であります。研究そのものは研究者の主観、直感と学問芸術の女神ミューズの微笑みの助けによるといった、ある意味で矛盾した要素をもっている、非常に奥の深いものであります。

皆さんの努力と成功を期待いたします。

## 大学の動き

### 平成14年度学部入学式

4月8日(月)午前10時から、平成14年度学部入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、

京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午前10時35分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

	募集人員	一般入学者	外国学校出身者のための選考による入学者	計	外国人留学生			第3学年編入学者	再入学者	計	合計
					国費	私費	小計				
総合人間学部	130人	134人	人	134人	1人	人	1人	1人	人	1人	136人
文学部	220	224		224				7		7	231
教育学部	60	63		63				9		9	72
法学部	340	362	2	364	2	1	3	33	1	34	401
経済学部	230	239	4	243	2	7	9	6		6	258
理学部	301	301		301	1	1	2				303
医学部	100	106		106							106
薬学部	80	85		85		2	2				87
工学部	955	957		957	3	13	16	15		15	988
農学部	300	310		310		3	3				313
合計	2,716	2,781	6	2,787	9	27	36	71	1	72	2,895



## 平成14年度大学院入学式

4月8日(月)午後3時から、平成14年度大学院入学式が、名誉教授はじめ来賓出席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、京都大学交響楽団による式典曲奏楽、

京都大学合唱団による学歌斉唱に続いて、「総長のことば」があり、午後3時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次表のとおりである。

	修士課程				博士後期課程									
	入学者	外国人 国費	留学生 私費	合計	編入 入学者	外国人 国費	留学生 私費	再入 学者	小計	進学者	外国人 国費	留学生 私費	小計	合計
文学研究科	95 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	11 <sup>人</sup>	107 <sup>人</sup>	11 <sup>人</sup>		2 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	14 <sup>人</sup>	46 <sup>人</sup>	2 <sup>人</sup>		48 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>
教育学研究科	33		3	36	1				1	23		2	25	26
法学研究科	50	3	3	56				2	2	13		2	15	17
経済学研究科	50	7	20	77	4	4	5		13	28	2	2	32	45
理学研究科	243	2	2	247	26	2	2		30	115		2	117	147
薬学研究科	83		1	84	4				4	28	2		30	34
工学研究科	591	6	18	615	28	2	9		39	76	5	5	86	125
農学研究科	275	3	5	283	16	5	5		26	86	3	1	90	116
人間・環境学 研究科	139	8	11	158	7	1			8	51	3	3	57	65
エネルギー 科学研究科	122		3	125	9				9	11			11	20
情報学研究科	175	1	16	192	13		2		15	24		2	26	41
生命科学研究科	71		1	72	9				9	47	1		48	57
医学研究科	39	1	1	41	4				4	10	1		11	15
合計	1,966	32	95	2,093	132	14	25	3	174	558	19	19	596	770

	博士課程					一貫制博士課程				
	入学者	外国人 国費	留学生 私費	転入 学者	合計	入学者	外国人 国費	留学生 私費	編入 学者	合計
医学研究科	138 <sup>人</sup>	2 <sup>人</sup>	7 <sup>人</sup>		147 <sup>人</sup>	24 <sup>人</sup>	7 <sup>人</sup>			31 <sup>人</sup>
アジア・アフリカ 地域研究研究科										

教育学研究科の追加募集及び地球環境学舎の新専攻に係る入学者を除く。



## 名誉教授称号授与式

4月9日(火)午前11時から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。

授与式は、部局長の出席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長のあいさつ」があり、午前11時35分終了した。

称号を授与された方は、次の36人である。



(氏名)	(推薦部局)
田中渥夫	(工学研究科)
神田啓治	(原子炉実験所)
坂口守彦	(農学研究科)
伊原康隆	(数理解析研究所)
藤本博	(工学研究科)
石黒武彦	(理学研究科)
荒木徹	(理学研究科)
天野正輝	(教育学研究科)
志賀正幸	(工学研究科)
奥西一夫	(防災研究所)
高橋隆	(医学部附属病院)
浅野潔	(人間・環境学研究科)
新庄輝也	(化学研究所)
土岐憲三	(工学研究科)
石本秋稔	(ウイルス研究所)
榎山正進	(人文科学研究科)
杉浦明	(農学研究科)
尾崎邦宏	(化学研究所)

(氏名)	(推薦部局)
西村善彦	(医学研究科)
大谷隆一	(工学研究科)
宗宮功	(工学研究科)
足立紀尚	(工学研究科)
藤田薫顕	(原子炉実験所)
住友恒	(工学研究科)
伊藤嘉明	(ウイルス研究所)
吉原久仁夫	(東南アジア研究センター)
間野英二	(文学研究科)
富士薫	(化学研究所)
郷信廣	(理学研究科)
梶慶輔	(化学研究所)
渡辺弘之	(農学研究科)
川口三郎	(医学研究科)
桂義元	(再生医科学研究科)
亀田弘行	(防災研究所)
和田英太郎	(生態学研究センター)
立本成文	(東南アジア研究センター)

## 平成14年度入学者選抜学力試験の結果

平成14年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の前期日程試験は2月25日（月）・26日（火）に、後期日程試験は3月13日（水）・14日（木）に実施した。

学部別の受験者数，合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	倍率 (B/A)	第1段階 選抜合格者数	(C) 受験者数	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	追加合 格者数	入学者数	
総合人間学部	130人												
前期 文系	55	180	3.3	174	172	3.1	2	1.1	56			134	
前期 理系	55	221	4.0	213	212	3.9	1	0.5	56				
後期	20	371	18.6	320	178	8.9	142	44.4	22				
文 学 部	220												
前期	190	582	3.1	582	574	3.0	8	1.4	193			224	
後期	30	417	13.9	303	142	4.7	161	53.1	31				
教 育 学 部	60												
前期	40	156	3.9	150	150	3.8	0	0.0	43			63	
後期	20	171	8.6	148	94	4.7	54	36.5	20				
法 学 部	340												
前期	320	835	2.6	832	821	2.6	11	1.3	323	1		362	
後期	20	437	21.9	363	126	6.3	237	65.3	40				
経 済 学 部	230												
前期 一般	160	623	3.9	623	608	3.8	15	2.4	160	3		239	
前期 論文	50	320	6.4	258	252	5.0	6	2.3	52				
後期	20	726	36.3	578	389	19.5	189	32.7	30				
理 学 部	301												
前期	271	956	3.5	929	921	3.4	8	0.9	271			301	
後期	30	1,208	40.3	1,184	795	26.5	389	32.9	30				
医 学 部	100												
前期	90	467	5.2	409	401	4.5	8	2.0	94			106	
後期	10	230	23.0	152	76	7.6	76	50.0	12				
薬 学 部	80												
前期	70	276	3.9	276	268	3.8	8	2.9	75			85	
後期	10	195	19.5	195	126	12.6	69	35.4	10				
工 学 部	955												
前期	857	2,476	2.9	2,474	2,454	2.9	20	0.8	859	1		957	
後期	98	952	9.7	787	417	4.3	370	47.0	99				
農 学 部	300												
前期	233	753	3.2	752	742	3.2	10	1.3	242	4	1	310	
後期	67	954	14.2	926	612	9.1	314	33.9	71				
小 計													
前期	2,391	7,845	3.3	7,672	7,575	3.2	97	1.3	2,424				
後期	325	5,661	17.4	4,956	2,955	9.1	2,001	40.4	365				
計	2,716	13,506	5.0	12,628	10,530	3.9	2,098	16.6	2,789	9	1	2,781	

(注) 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

## 〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	倍率 (B/A)	第1次 選考合格者数	(C) 受験者数	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	入学者数
法 学 部	20人以内	37人	1.9	18人	9人	0.5	9人	50.0%	2人	2人
経 済 学 部	10人以内	23	2.3	10	5	0.5	5	50.0	4	4

## 医療技術短期大学部の動き

### 平成14年度医療技術短期大学部入学式

4月9日(火)午前10時から、平成14年度医療技術短期大学部入学式が、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、長尾 真学長の式辞、来賓祝辞があり、午前10時20分終了した。

### 平成14年度医療技術短期大学部入学者選抜試験の結果

医療技術短期大学部では、平成14年度入学者選抜試験を3月2日(土)、3日(日)に実施し、その合格者を3月8日(金)に発表した。ただし、助産学特別専攻の入学者選抜試験は1月25日(金)に実施し、合格発表は2月1日(金)に行った。

受験者数、合格者数及び入学者数は次表のとおりである。

区 分	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数
看 護 学 科	80 人	342 人	297 人	117 人	80 人
衛 生 技 術 学 科	40	296	259	65	42
理 学 療 法 学 科	20	247	218	25	20
作 業 療 法 学 科	20	187	154	31	20
小 計	160	1,072	928	238	162
助産学特別専攻	20	127	116	20	20
合 計	180	1,199	1,044	258	182

